

銀影競技 T90 インプレッション

2020年6月27日現在

久しぶりの新しい竿。これまでのメインロッドはシマノのスペシャル競 FWH2.6。FW を最初に手にした時はあまりの軽さに驚き、オトリを引いた時にはスーッとオトリが付いてくることに不思議な感覚を覚え、握ると割れる（流された時に本当に握りつぶした）ほどの薄さなのに 22 cm 位の鮎も抜けるパワーに驚きました。次に竿を買う時も絶対に FW と思っていたのですが、FW がモデルチェンジした昨年は車を買ったこともあって断念。もう何年も買っていないので、今年こそは！と思っていたところに、ダイワの銀影競技 T のモデルチェンジ。最初は、そんなに気になっていなかったのですが・・・というのも。大会で勝てる竿は柔らかい竿！との話が多く聞かれるので、技術に乏しい私には、先調子のパワーロッドでは勝てる気がしません。ということで、FW を更新して、古い FW をオークションにでも出し、そのお金で中古のパワーロッドを買おうかと思っていました。しかし、何故か T が気になり、FW を売るのも面倒になり、今持っている FW は非常に良い状態なので、竿のバリエーションを増やした方が良くいかも！と考えを切り替えました。後は、大会の予選が多い初期（チビ鮎）に T がどの程度使えるか？メーカーの宣伝や動画をみても、パワーを強調するものが多く、今一不安ななか、思い切って T90 を購入してみました。

さて、前置きが長くなりましたが、竿が届いてから 2 週間。ようやく釣りに行くことができたので、ファーストインプレッションを報告します。

まずは、持った感じです。自重 225g は、FW の 215g と比べると 10g 重い。もちろん、FW が非常に軽い竿なので、225g 自体は鮎竿の中では軽い方だと思います。ただ、持った感じは、バランスの違いかもしれませんが、思ったよりは重い印象。でも取り回しに影響するほどではなく、先入観なく持てば間違いなく軽いね～となると思います。今回最初のポイントは腰くらいの水深でやや押し



T 90・R	
089201428	
【標準全長】	9.00 m
【仕舞寸法】	1.43 m
【総数】	8 本
【標準自重】	225 g
【先径】	1.7 mm
【先径(替細)】	1.05 mm
【元径】	23.6 mm
【総負荷】	0-5 号
【替負荷(替細)】	0-7 号
【適合水中糸】	
メタルライン	0.02-0.2 号
ナイロン	0.125-0.6 号



が強い筋。養殖オトリなので、1号玉を付けて流れに沈めました。当然ですが、張りがあり先調子なので思ったポイントに速やかに入れられます。今回使って一番感じたのは、オモリを付けた時のコントロールが非常にやり易いということ。FWはオモリにも十分対応しますが、引き上げではジワジワ引けて良いのですが、ポイントを変える時の打ち返しは、思いオモリだと「よっこらせ」感があります。それに比べるとTは竿先で軽くコントロールできる感じ。細かな打ち返しは非常に楽です。そして引いた感じですが、さすがにぶれ感は少なく、直線的な感じ。やはり、ジワジワ引き上げるよりは、テンポ良くポイントを変えていく釣り方にあっている印象です。

1尾釣れた後は、ノーマルも試してみました。もっとガチガチの感触かと思いましたが、穂先は適度に柔らかいので、穂先を効かせての釣りもできないことはない感じですが、基本的には穂先も強いのでオバセ気味の方が良いかもです。

そして、今回以外だったのは、先調子なので泳がせはやり易いかと思っていましたが、竿を立てると、胴のぶれ感？胴の反発が強いためか？ちょっとした手のぶれが穂先まで増幅される感じ。穂先をビタッと止めて釣るにはちょっと慣れが必要に感じました。

そして、売りのパワーですが、これは申し分ありません。今回は21cmまででしたが、「抜くぞっ」と力を入れると難なく魚が飛んできて、空中でのコントロールもバッチリ。これなら悪い体制で抜いても、途中でコントロールが効くと思います。

さて、小鮎にはどうでしょう？さすがにノーマルで沈める自信はありませんが、オモリを使った釣りならば十分対応できそう。今回も小鮎を何尾か掛けましたが、バレることもなく取り込めました。

まだまだ、使い込んでみないと判りませんが、とりあえず気に入りました。盛期の天然アユをバチバチ掛けてみたい竿ですね。その時はスイッチシステムも試してみます。